

②：シミュレーションによる米子湾の流動解析結果

(1) 米子湾の流れ（流向・流速について）

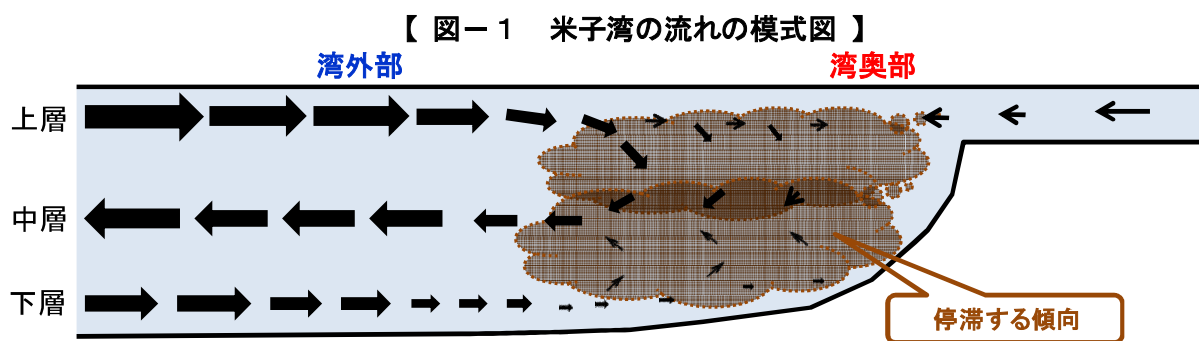
○結果・・・図-2

流動観測結果のとおり、頻繁に流れの状況の変化が観測されたため、シミュレーションでは、米子湾の特徴を把握するため、年間平均して流動を評価した結果、概ね以下の傾向を示した。

- ① 流れの構造は3層（表層と下層は湾奥へ、中層は湾外へ流れる）を示した。
- ② 湾奥部へ行くほど水の流速は減少しており、湾奥ほど流れが停滞しやすい傾向にある。

○流れの考察

表層水が米子湾に向かう傾向にある理由は、飯梨川などの水量に比べ、湾奥の加茂川等の水量が少ないことや、西寄りの風が吹く割合が高いことなどが可能性として推測される。



(2) 米子湾の上層水の拡散傾向

○結果・・・図-3

米子湾に流入する汚濁物質の拡散状況を把握するため、米子湾奥からの拡散状況をシミュレーションにより評価した。

また、米子湾の傾向を見るために、中海湖心からの拡散状況と比較した。

- ① 米子湾の拡散パターンから、湾内での拡散は鈍く、湾外に出ると拡散が早くなる傾向がみられた。
- ② 米子湾内の表層部の拡散は、中海湖心と比較して拡散が鈍く、米子湾の水が湾外に出にくい傾向がある。

図-2 米子湾の流れ（流向・流速）・・・・・・・・（2012年間平均）

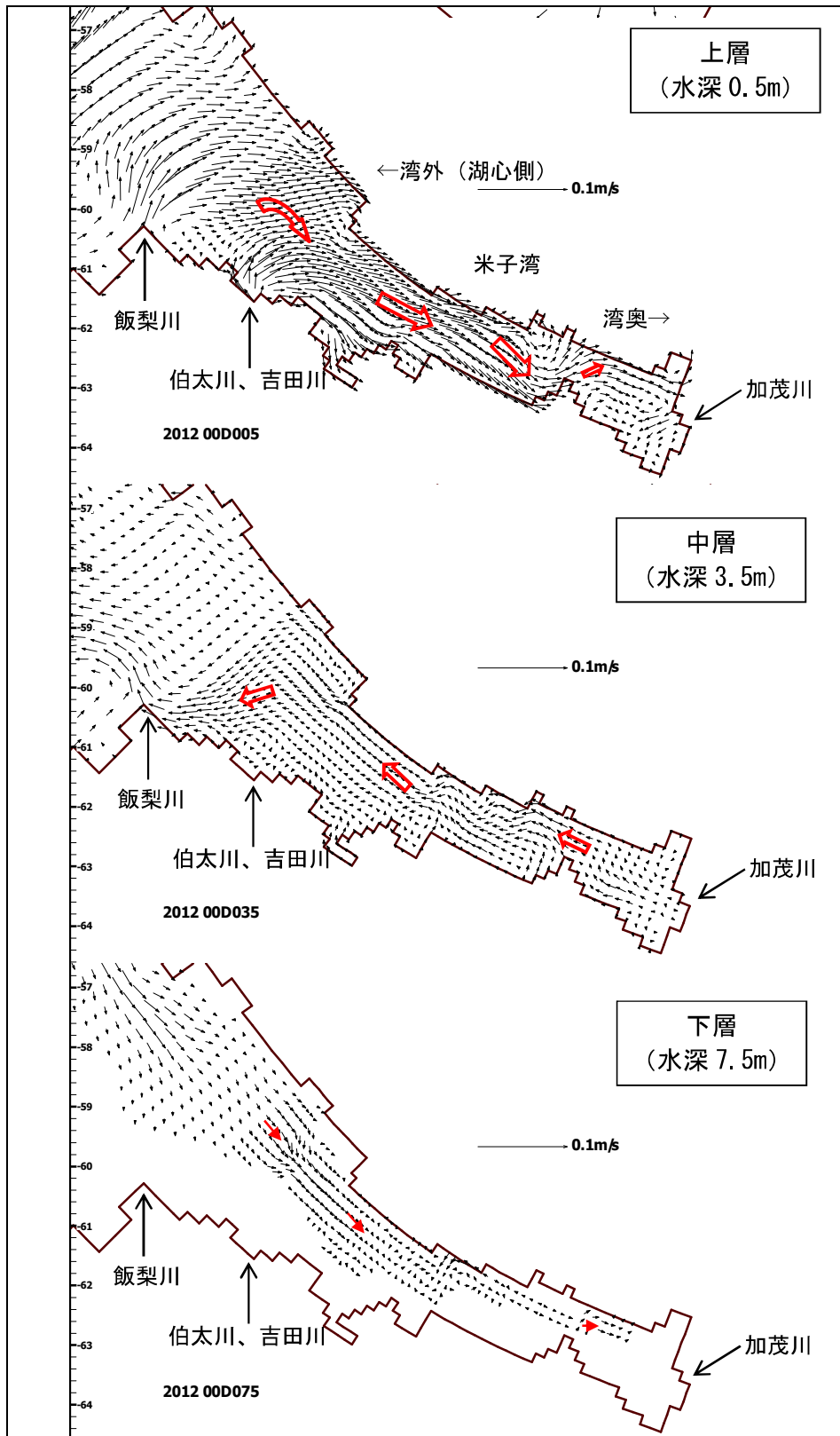
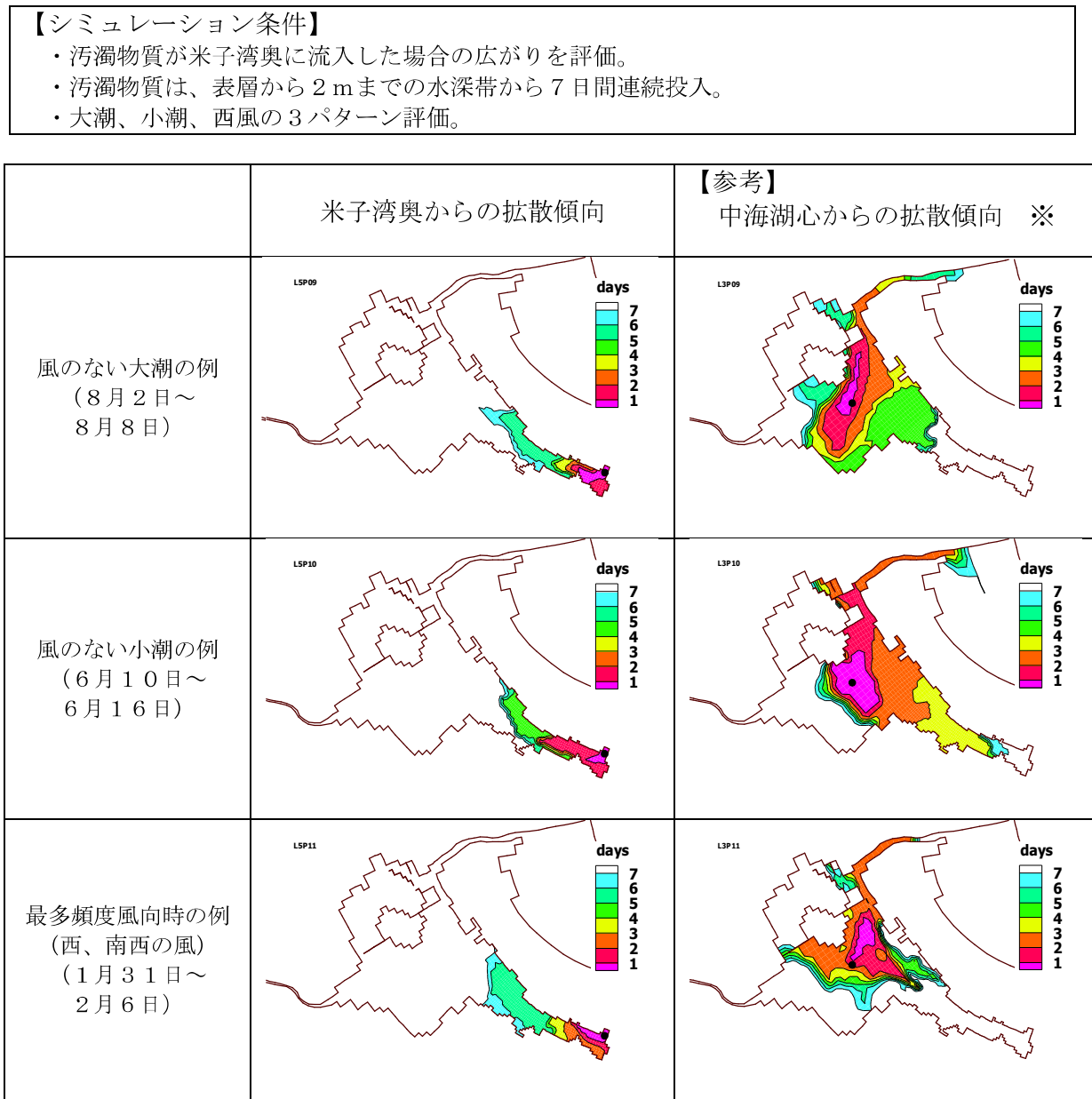


図-3 米子湾の上層水の拡散傾向



※ 中海湖心からの拡散図は、実測を踏まえたシミュレーション結果ではないが、米子湾の傾向を見るために、参考に比較した。

3 まとめ

- ① 米子湾における流動と水質については、米子湾では水が停滞する傾向にあるため、河川等から流入した汚濁物質が滞留しやすいと考えられる。
- ② 他水域と比べ流れが滞留しやすい米子湾の対策としては、より一層の流入負荷の削減対策や覆砂等の底質改善対策が考えられ、また、根本的な滞留改善のための対策や流動特性を勘案した対策も想定される。
- ③ 今後は、現在実施している底質調査や流入負荷量調査結果を踏まえ、米子湾の流動特性に応じた効果的かつ具体的な水質浄化対策を検討する

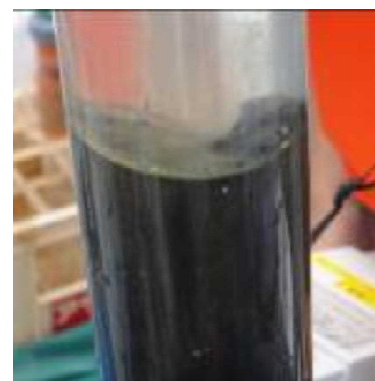
4 その他

(1) 底質調査について (H24～25年度)

目的

- ・湖沼水質への影響が大きいと思われる底質について、栄養塩類の含有量や溶出量について調査し、底質の状況や湖水への影響を把握する。

	H24年度			H25年度	
	夏	秋	冬	春	夏
①底質ヘド口厚や性状等、底質状況の面的把握調査(39地点)	○				
②底質の栄養塩含有量等の柱状把握及び四季調査(5地点)		○	○	○	○
③底質における酸素消費速度及び栄養塩溶出速度の四季調査(3地点)		○	○	○	○
④底質からの硫化水素の発生状況等の四季調査(5地点)		○	○	○	○



(2) 流入河川水質調査について

① 観測目的

- ・ 流入河川の水質（CODなど）とともに、中海への流下量を調査して、中海へ流入する負荷量をより多くの地点で把握し、今後の水質浄化対策等の基礎資料とする。

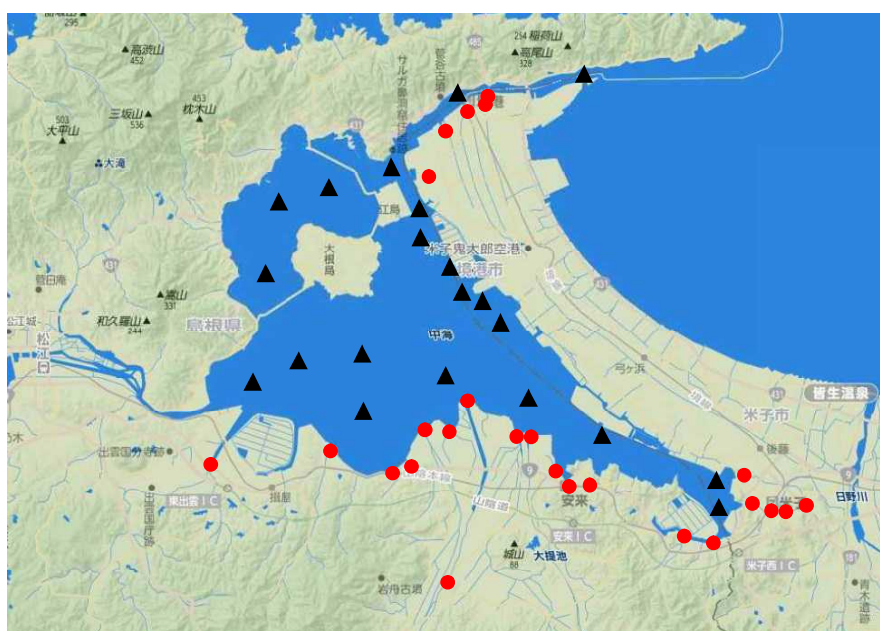
② 観測概要

- ・ 調査地点は、中海の水質に影響を及ぼすと考えられる公共用水域調査地点流入河川等（中海：21地点、河川：約30地点）で行う。
- ・ 各調査地点の水質調査日をできる限り統一して、実施する。
- ・ 流入河川等は、流下量を把握するため流量調査も行う。

③ 調査項目及び頻度

- 調査項目：水温、COD、全窒素、全りん、流量（流速×断面積）
- 調査時期：9月第1週で調整中

④ 調査地点



⑤ 平成26年度の取組み（お願い）

- 調査項目：水温、COD、全窒素、全りん、流量（流速×断面積）
- 調査回数：4回/年（四季調査を想定）

第 4 回「中海沿岸農地排水不良WG」について

- 1 開催日時 平成 25 年 7 月 17 日（水） 14:00～16:00
- 2 出席機関 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所
農林水産省中国四国農政局整備部
鳥取県農林水産部農地・水保全課、西部総合事務所地域振興局、西部総合事務所農林局
米子市企画部企画課、経済部農林課

3 報告事項

(1) 崎津モデルほ場への残土受け入れの経過

平成 24 年 9 月 国土交通省出雲河川事務所から日野川河川事務所管内の工事による搬出土の利用について情報提供があった。

平成 24 年 10 月 現地にて、国土交通省日野川河川事務所、地元代表、米子市合同で、搬出予定土等について確認をし、地元受け入れ体制の調整を依頼する。

※ 受け入れについては、地元受け入れ希望農業者の個々の都合により、大量の土を受け入れできないこと及びほ場が点在していることなどの問題があったうえ、搬出土が粘土質で、ほ場に適さないとの判断をし、今回の工事分は、受け入れを断念した。

(2) 崎津モデルほ場の農振農用地区域への編入等の経過

平成 24 年 6 月 崎津地区での地元関係者等と意見交換会及び意向調査

平成 24 年 10 月 モデルほ場地元代表者と意見交換を実施。

平成 25 年 1 月 モデルほ場地元代表者と意見交換を実施

※ 耕作者(地権者)の間でも賛否両論で調整が難しい。

(3) 排水不良農地での耐湿性作物の試作の経過

彦名地区、崎津地区で、農業者等への事業説明、試作調整等をおこなったが、実施候補農業者の営農時期とほ場の確保等の調整ができなかった。

4 協議事項

(1) 設置要綱の改正について（資料1）

ワーキンググループの構成員の部課名が機構見直し等により変更となったため設置要綱の一部改正をした。

(2) 排水不良農地（崎津モデルほ場）への残土受け入れについて協議・検討（資料2）

- ①現状 モデルほ場 A = 3.3 ha
受け入れ量 約4,000 m³
受け入れ面積 約0.8 ha（50cm客土）
- ②今後 必要量 約12,500 m³
必要面積 約2.5 ha（約50cm客土で試算）

(3) 排水不良農地での耐湿性作物の試作について協議・検討

5 今後の予定

上記検討・協議結果を基に、

(1) 残土受け入れについて、引き続き、「鳥取県西部地区建設発生残土対策協議会」の工事残土情報等を基に、地元と協議・調整を図りながら、モデルほ場で活用できる残土の受け入れを進める。

(2) 新たに、彦名地区での排水不良対策への取り組みを地元と協議・検討を進める。

(3) 農振農用地区域への編入等について、引き続き、地元と協議を進める。

(4) 耐湿性作物の試作について、引き続き、地元農業者等と協議・検討を進め、「弓浜農業未来づくりプロジェクト事業」での試作実証に取り組む。



「中海の利活用に関するワーキンググループ」の検討状況について

平成25年7月26日

中海会議利活用WG事務局（鳥取県未来づくり推進局）

【ワーキンググループ概要】

趣 旨：関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを享受・活用し、継承していくための取組を考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。

構 成：別添名簿のとおり。（事務局は鳥取県未来づくり推進局企画課及び島根県政策企画局政策企画監室。内容により名簿記載以外の部課も適宜参加）

【これまでの開催経過】

OWG打合せ会 平成22年6月22日

内容：設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。

○第1回WG 平成22年9月2日

内容：設置要綱を確認。検討の方法等を協議、まずは検討の柱5つを以下のとおり設定。

（テーマ：一体感の醸成“中海でつながる” 水面のスポーツ利用“中海に親しむ遊ぶ”
海藻の利用“中海で循環する” 食文化“中海の恵みをいただく”
環境学習“中海を知る”）

○第2回WG 平成22年11月8日

内容：現在取り組まれている既存事業等を整理。検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業へ。

○第3回WG 平成23年3月17日

内容：各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約。内容を吟味し、方向性について確認。

○第4回WG 平成23年6月29日

内容：利活用アイデア（たたき台）について、既存事業・既存団体との関わりや実現可能性、経費面など、個別具体的な内容について検討し、効果・波及度、実現性が高いもの（既に実施中を含む）などをセレクト。

○第5回WG 平成24年3月14日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第6回WG 平成24年7月9日

内容：利活用アイデアの取り組み状況の整理と検討方針の確認。

○第7回WG 平成25年3月18日

内容：利活用アイデアの状況及び今後の推進方針等を確認。また、中海利活用WGの今後の進め方について協議。

○第8回WG 平成25年5月1日

内容：第7回WGにおいて協議した今後の進め方について再協議。WGで提案された利活用アイデアだけでなく、他団体で取組まれている内容も一覧にして会議へ報告することを確認。